

次世代中医学を目指して：我々は何をすべきなのか？

## 東日本大震災の 復興事業計画案から

関 隆志

フジ虎ノ門整形外科病院 統合医療センター

### 東日本大震災

電気・ガス・水道のみならず、交通網も絶たれ、日常の医療が崩壊した。大学病院ですら診療に必要な薬がなく、入院患者の給食もままならない状況。

津波の被災地では、街が失われたため水道などのインフラがなく、衛生状態が悪い状態。東北大学漢方内科の有志は、ボランティアとして被災者の診療に向かったが、衛生状態の悪さから鍼治療を諦め、指圧やマッサージを行い、喜んでいただけました。

また、一人ひとりを弁証して、その人に適した経穴の部位を指導したり、メーカーの好意で送っていただいた漢方エキス製剤を手渡したりした。漢方薬とともに鍼灸治療を長年行ってきていたが、その時に改めて、薬がなくても鍼灸の知識があれば、被災地でそれなりの対処ができることに今更ながら気付かされた。

津波への恐怖から不眠を訴える被災者が多かったが、当時、余震が非常に多く、「眠っているとまた津波が来たときに逃げることができないから」と、睡眠薬の内服を断られたことは珍しくなかった。そのような時は、加味逍遙散などの漢方エキス製剤が役に立った。

震災の後、日本中医学会の先生方が、当時私が勤務していた東北大学に見舞ってくださり、翌年の学術総会開催のための援助を申し出てくださった。2012年9月1日、第2回学術総会では、東日本大震災の復興事業計画を発表させていただいた。

### 復興事業計画

津波で喪失した町を再建するための、中医学を街のインフラ、ビジネス、住居などに活用した案である。東北大学の各学部、東北の企業、被災自治体とともに、仙台市近隣の津波被災自治体のための復興プランを検討した。農学部からは「農

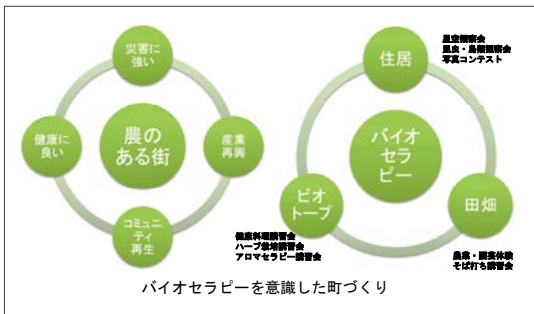


図1 農のある街

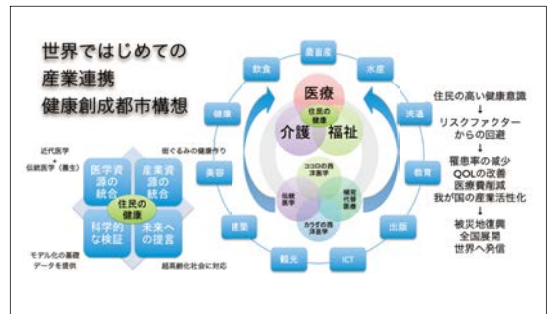


図2 みやぎヘルスケアシティ構想

のある街」(図1)、血液型ごとに適した乳製品、ホヤから作る認知症を改善するサプリメント。薬学部からはミカンから作る認知症薬。工学部からは地元に昔から伝わる屋敷林「居久根(いぐね)」の形式を活用した、患者とその家族のための滞在型の住宅、住むことで健康を増進する「健康住宅」。流体科学研究所からは津波が襲っても耐えることができる建築。教育学部からはPTSD患者の心のケア。情報シナジーセンターと加齢医学研究所からは遠隔医療システム、などそれぞれ最先端のアイデアを提供していただいた。

また、地元産業界からは、海外のマンパワーを生かすべく国際看護大学設立案も出された。

東北大学医学部の漢方内科と日本統合医療学会有志はこれらのプランを中医学の観点から統合するとともに、科学的エビデンスを構築するための国立の統合医療センター新設し、それを中核に据えた都市計画を立案した(図2)。こうした構想を国に提案し、財務省のヒアリングもしていただいた。その後、政権交代などがあり、実現には至らなかった。しかし、わが国が地震・台風・火山などによる震災大国であることに変わりはなく、その後も、地震や台風の被害が相次いでいる。

このようなわが国の現状から、次世代の中医学に求めるものの一つに伝統医学をインフラストラクチャの段階から取り入れた震災に強い都市計画およびそれを活かした震災復興プランが挙げられる。

## 静岡県御殿場市に統合医療センター

現在、静岡県御殿場市の富士山麓の森の中に、統合医療センターを建設中である(図3)。統合医療の診療所のほかに「森の幼稚園」「産後ケアセンター」を併設する予定である。森林療法ができて虫が飛び交うビオトープ、富士山麓の植物や摘み取って食べることができる薬草を植栽したハーブ園、アニマルセラピーのためのポニー園、グランピング場。敷地内の宿泊施設は長期滞在しての治療・健康増進やワーケーション、健康経営を目指す企業のための福利厚生施設としても活用できる。緑に囲まれた起伏のある敷地内はスポーツ栄養学と薬膳を融合した食事を提供できる高いレベルのスポーツ合宿にも適し、更には専属のプロ選手にサイクリングやゴルフの指導を受けることもできるスクールを開講予定である。

伝統医学の中医学、アーユルヴェーダ、アロマセラピーを中心に、難治性疾患

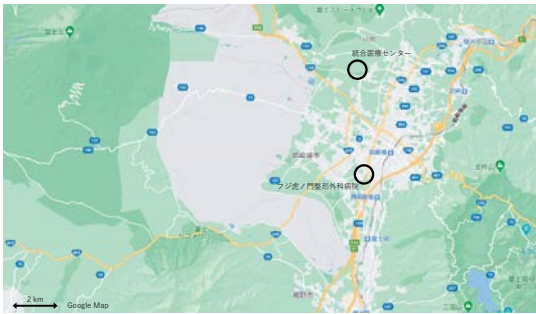


図3 病院と統合医療センターの地図

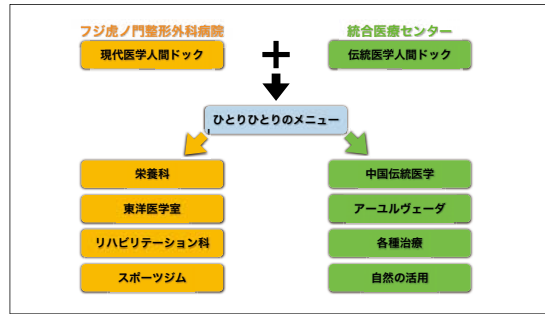


図4 統合医療人間ドック



図5 病院内の講習会



図6 診療所と敷地

の治療のみならず、瞑想や断食などさまざまな方法を活用した美容・健康増進やスポーツのパフォーマンス向上のプランも計画中である。

この統合医療センターは自動車でも20分ほどの距離にある同市内の総合病院(図3)、フジ虎ノ門整形外科病院グループ会長の発案であり、この病院と密接な連携をとりつつ運営することが当施設の特徴の一つである。総合病院で現代医学の健康診断を行い、同時に統合医療センターで中医学とアユルヴェーダの観点から診断・治療を行う、より総合的な人間ドックが可能(図4)。この病院内にはすでに鍼灸・指圧マッサージとタイ古式マッサージを行う東洋医学室、専属のトレーナーのいるスポーツジムがあり、プロスポーツ選手と契約を結び、単に病気の治療にとどまらず、身体能力の向上に寄与してきている。このような総合病院と緊密な連携を持つ大自然の中の施設が当統合医療センターである。

2020年夏から、フジ虎ノ門整形外科病院では建設中の当センターとの連携をとるために、看護部、栄養科、東洋医学室、スポーツジムなどの職員同士で、それぞれの専門分野について講義をし、他職種の考え方や手法を学ぶ機会を月1回ほどのペースでつくっている(図5)。

センター内の診療所は2021年7月開院予定(図6)。宿泊施設は同9月頃を予定している。エコツーリズムや、スポーツツーリズム、ヘルスツーリズムなどの取り組みにより、自然環境への意識が高まり、自然を利用しつつ保全する仕組みづくりにもつながる。

医師、看護師のみならず、中医学、アユルヴェーダ、アロマセラピー、薬膳などの専門家を目指す人びとの参加を期待している。これらの施設を活かした医

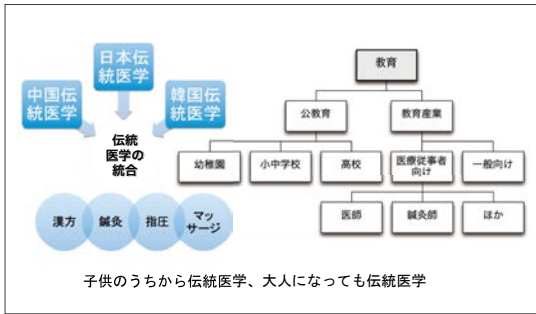


図7 伝統医学を教育に

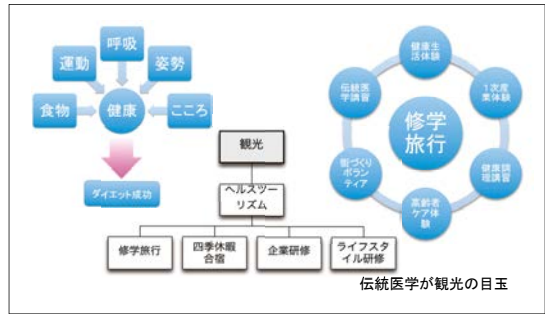


図8 伝統医学を観光に

療，教育（図7），観光（図8）などの新規事業に参入したいという企業・自治体・人びととともに施設を活用していきたい。

## ■ 当センターの意義

震災復興とは異なる状況である。当センターは私立の施設であるが，震災復興プランの立案時に検討を重ねたことが，当センターの構築に役に立っていることを実感している。現代医学に伝統医学などを併用するこのような「統合医療センター」を作ろうとする動きは，全国にある。当センターは，こうした志を同じくする全国の施設とのネットワークを構築していくことも考えている。先進国での伝統医学診療のニーズは大きく，また大多数の貧しい国家では伝統医療が国民の健康を支えているとされる。統合医療センターのネットワークは，中医学などの伝統医学のエビデンス構築のひとつの基盤となり，世界の医療水準の向上に貢献する可能性を秘めている。